

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年5月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4697300046
法人名	株式会社 スマイルサポート
事業所名	グループホーム 優芽
所在地	〒893-1203 鹿児島県肝属郡肝付町後田5567番地1 (電話) 0994-36-5833
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 10 日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年4月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念 『ひとりひとりの心に幸せが芽吹き、笑顔あふれる場所づくりを目指します』

- ・コロナ禍の影響で、外の出かける機会が減少しているが、自然豊かな環境の中、畑に苗を植えて収穫を楽しんだり、プランターに花を植え手入れをしています。また、昨年・今年と色々な面で支障をきたしているのが現状です。ご家族や地域との関りがままならない中で、いかに利用者様の生活に変化をつけ楽しんで頂くかを考え留意しながら、実現できる範囲で入居者様の意向に添えるような対応を心がけています。(施設内での行事の充実など)
- ・田舎ならではの特性を生かし、米・野菜・味噌などを自給自足し、食の安全にこだわり、安心して生活できる環境作りに取り組んでいます。
- ・災害時の福祉避難所として指定を受けており、災害時にも快適に過ごしていただけるよう努めています。
- ・これからも「利用者様の笑顔を大切に」「利用者様の声に耳を傾ける」「利用者様目線で物事を考える」グループホーム作りを目指して行きます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿屋市街地から近く、緑豊かな場所に同法人が運営する住宅型有料老人ホームやデイサービス、居宅介護支援事業所を併設している。周辺一帯がホームの所有する畑になっており、米や野菜を自家栽培し、毎日の食事に提供している。また、敷地内の菜園には大根や白菜、オクラ等、季節の野菜を育て、収穫を楽しむと共に、そば打ちやちまき作り、餅つき等、季節行事を兼ねて食べることの楽しみや重要性を大切に考え、日々の生活に反映させている。

「ひとりひとりの心に幸せが芽吹き、笑顔あふれる場所づくりを目指します」を理念の基本とし、「人と人との心のふれあい」や「自己決定の尊重」「できないところをさり気なく支援し安心感につなげる」の3つの柱をフロアの目に付く場所に掲示すると共に、毎朝の申し送り時に理念に即した支援が実践できているかを振り返り確認している。特に「さり気なく」という思いを大切にしながら自然に支援につなげられるよう日々接するようにしている。

日々の会話や様子等から本人の思いを汲み取ると共に、家族からは面会時や状況報告のため、電話連絡の際に意見や要望はないかを尋ね、ケアに反映させている。また、これらの思いや意向をケアプランに反映させることでケアの統一につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域、家族、職員、皆で利用者を支援し、管理者職員は理念を共有し実践につなげている。	毎朝の申し送り時に理念に即した支援ができていないか確認すると共に「さり気なく」を大切にケアが自然に行えるよう考え、理念の共有を図りながら実践につなげて行けるよう心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年、今年とコロナの影響で地域との交流会を開催することは出来なかったが、地域の方から野菜の差し入れなどあり、窓越しに挨拶を交わすなどした。	地域住民の一員として自治会に加入し、自治会の門松作りの場所の提供から制作までを共同で行い、ホームや公民館に設置している。また、ホームの餅つきに近隣住民も参加するなど地域交流を継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域で行われる認知症勉強会などの講師として参加している。 (認知症の理解や支援、見守り、声掛けなどの方法を伝えている)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、役場担当職員、有識者、地域の代表者、職員など参加し、状況報告を行っている。昨年度、今年度はコロナ感染予防の為、書類のみの報告。	コロナ感染症拡大のため、主として書面による会の開催としているが、昨年12月は感染者数が減少したため、餅つき行事と併せて運営推進会議を開催することができた。会議では利用者状況等、近況について報告し意見をもらう機会となった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料の配布、施設状況の報告相談等を行うことで、施設担当者との信頼関係を築き、お互いの協力関係作りに取り組んでいる。	行政職員とは介護保険関係の書類提出時や相談事がある時等に訪問し助言を求めるほか、電話やメールでもホームの実情や利用者の暮らしぶりを伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。自施設、外部で行われる研修に参加している。玄関は18:30～7:30までは施錠し、以外は開錠している。	「身体拘束等の適正化のための指針」を備え、身体拘束廃止委員会を定期的で開催すると共に、適正化に関する研修も計画的に実施し、拘束のないケアの重要性や拘束の弊害についてを話し合っている。また、言葉による拘束については、委員会等で必ず話し合う機会を設けることで注意喚起に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したりしている。虐待防止についての啓発などを行い実施している。また、防犯カメラが設置してあり、それらを有効活用することで虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設内・外で行われる研修会に参加している。職員への啓発を行うとともに、家族で必要な方は支援するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約、改定などの際は、入居者、家族の不安などお聞きし、十分な説明を行い、理解、納得して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>些細なことでも家族に連絡するように心がけている。運営推進会議で意見交換したり、面会時にお聞きしたり、意見箱を設置し、意見相談できるようにしている。</p>	<p>定期的に家族に利用者の様子等、状況報告を行うと共に、些細な事や小さな気づき等においても都度、連絡を入れるようにしている。また、面会時には必ず家族の意見や要望はないかを尋ね、出された意見は速やかに話し合いを行い業務改善につなげている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やミーティング、日頃から管理者等へ話の出来る環境を整えることで、職員からの要望、意見などを聞きながら業務運営している。また勤務においては勤務希望に関しての配慮も行っている。</p>	<p>朝夕の申し送り時に職員の意見を確認するほか、年1回人事考課を兼ねた個別面談も実施して日頃言いつらい意見等にも管理者は耳を傾けている。また、勤務表作成時には、休日や夜勤、早出等の希望を尋ねている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格取得のアプローチ、フォローを行い各自が向上心を持って働くよう環境、条件などの整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を受ける機会を設けている。研修会に参加できなかった者も職員会時の研修報告・研修報告書などで情報の共有を図っている。また、スタッフの状況に応じた研修会の紹介など実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会に加入し、研修会への参加や情報交換など実施している。また、地域の管理者や同業施設との情報交換など実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の相談や、利用開始する前に、本人や家族とコミュニケーションをとり本人様の要望や、安心して頂ける関係作りに努めている。生活状況を知るために可能な限り情報収集をする。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居の相談があった時点で、家族の思いを理解し、傾聴することで信頼関係が構築できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の話を傾聴し必要な処置を講じている。また満床の場合は、居宅介護支援事業所等と連絡を取り情報交換を実施し、他のサービス利用等も含めて話し合いをしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>お互いに一緒に暮らす家族のような存在であり、お互いに癒されたり、励まされている関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により家族との切り離しや預けっぱなしにならないよう、家族としての役割を含めて、これまでと変わらない家族関係が継続できるようにしている。状況によって電話や面会など依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、知人や親戚などが訪問できるように支援している。(現在はコロナ感染予防の為、出来ていない。)面会は感染状況に合わせて行っている。	これまでの馴染みの関係を入居前に関わりのあった医療機関や在宅のケアマネージャー等から情報収集し、フェイスシートに落とし込み、入居後も家族や友人、知人等との関係が途切れないよう電話や手紙の取り次ぎを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話を楽しんだり、一緒にレクリエーションを行ったり、洗濯物も他者のも畳んで下さったりと、お互いに支えあい、お礼を言ったりする関係作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や本人との関係作りは続いており、支援相談には乗り、気軽に立ち寄って頂けるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人や家族の思いを大切にし、意向に沿った生活支援を心がけている。しかし、自分の思いを表現できない入居者様に関しては、今までの生活状況(生き方)や思いなどを家族に確認したり、カンファレンスを行う中で必要と思われることを話し合い、支援に繋げている。	本人、家族から思いや意向を聞き取るほか、本人が上手く思いを伝えられない場合は声を掛けた時の表情やアセスメント情報を考慮しながら思いの把握に努めている。また、日々の気付きを申し送り帳に記載して朝夕の申し送り時や状況に応じて都度、報告することで情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人にとって大切な事等を、会話から拾い出すことで、入居後も今までの生活の延長として生活できる様な支援を心がけている。状況によっては本人にとって思い入れのある家具の持ち込み等も提案している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身状態が常に安定しているとは限らない。施設としての日課ではあるが、毎日、個々の入居者の状態を把握したうえで、無理なく生活して頂けるように調整している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、本人の状況・希望と家族の意向、職員からの提案を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。入居者の状態変化時は、介護計画を現状に沿った内容になるよう、その都度見直しを行っている。	本人、家族の意向を基に3か月毎に実施するモニタリング評価や日々の申し送り時による利用者状況の報告等のほか、受診時に得られた医師の助言や指導等をケアプランに反映させている。また、プランには現状に即した詳細な支援内容が記載されケアに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、心身状態の記録は勿論、情報の共有が円滑に行われるように工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に生かせるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の要望に傾聴し状況に合わせて職員と相談したり、訪問診療、病院等と連携し、サービスの多機能に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍の為、外に向けての活動や、外部の受け入れが中々できないが、一人一人がその人らしく暮らし、楽しめるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関を決めるにあたっては、本人・家族の意向を優先している。医療機関との連携も、夜間を含めて問題なくスムーズにとれている。また、口腔衛生の観点から定期的な歯科検診も受けて頂いている。</p>	<p>入居前のかかりつけ医情報を把握し、入居後も本人や家族の希望する医療機関を受診できるよう家族と職員が協力して支援している。現在は訪問診療による安心から協力医療機関を受診する利用者が多い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>業務を行う中で、職員全員が情報の共有をできるようにしている。医療面での対応が必要な時は、施設の看護師から、かかりつけ医に相談し指示を受け対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院治療が必要な場合、病院と連携し安心して治療を受けられる体制をとっている。コロナ禍の為、入院中は病院の相談員からの情報を電話で確認するよう努めている。入院に際しては、施設看護師からの情報として病院にサマリーを持参している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りケア指針」が作成してあるが、まだ模索している状況である。今までの看取りでは医療依存が少ないことから、職員も「環境を変えることなく看取ってあげたい」との意見があり、病院と密接に連絡を取り最後まで施設で過ごして頂くことができた。</p>	<p>「看取り指針」「看取りについての事前確認書」「重度化した場合の対応に係る指針」を準備し、入居時に説明し同意書を交わしている。協力医療機関とは24時間連絡体制が整えられているため、これまでも看取りの事例はあり、早期から本人や家族、医師との話し合いにより支援内容を協議している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故等の発生マニュアル等作成し、備えている。また研修などで、専門家などの研修を受けて緊急時などに備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間に戸外に出る方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については訓練を実施している。近隣住民の方々には、日頃より入居者の特性を理解いただき、非常時に協力頂けるよう働きかけている。福祉避難所としての指定も受けており、日頃から食料・水などの備蓄もしてある。災害時にしっかりフォローできる体制を整えている。</p>	<p>年2回夜間想定を含む災害訓練を実施すると共に、目に付く場所に避難経路図を掲示し日常的に避難誘導等についてシュミレーションを行っている。備蓄として飲料水や米、食料品を準備し、懐中電灯やヘルメット等を備えている。また、電力確保（オール電化）のため、自家発電機やスプリンクラーの設置に加え、排泄を考慮して浄化槽設備も整える等、万一の災害に備え準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者との信頼関係を築くことから始めて、関係が築けたからといって、なあなあにならないよう気を付けている。実際のケアの中でも、プライバシーの確保を行うことは最も基本的な事と考え、実践している。	プライバシー保護の取り組みや権利擁護、接遇マナー等の研修を計画的に組み込み、さり気なくトイレ誘導を行ったり、排泄の際は膝にタオルをかける等、羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活が出来よう努めているが、希望に添えない場合は代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての日課(1日の流れ)はあるが、本人の思いや希望については本人と職員間で相談し調整することで、出来るだけ本人のペースで生活して頂けるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴後の洋服を選んだり、行事の時などはいつもと違う洋服を着て参加して頂くようお願いをしている。気分も晴れやかになり、好評である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は行事食として特別感を感じて頂けるように工夫している。日頃から、盛り付けなど見た目も気を付け、ミキサーの方の分もミキサーにかけた後、形よく整えている。	自家栽培の米や野菜、また近所から頂いた差し入れ等により常に旬のものが食卓に並ぶ。特に献立表は作らず、調理担当者が肉と野菜が重ならないよう翌日のメニューを考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の水分摂取量や食事摂取量を記録し、管理ができるようにしている。食事量が減少傾向にある場合は、個々の状況に応じた対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持ができるよう支援している。また、歯科医が定期的にチェックし、必要な処置を行ったり、アドバイスを受けたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔、パターンを把握し誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。状況に応じて、尿取りやオムツの使用をしている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を活用して把握につなげ、おむつ使用の方も日中は定期的にトイレ誘導を行うことで自然な排泄を促している。また、これらの工夫や排泄支援方法をケアプランに組み込み、支援の統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、食事、運動などの声掛けを行っている。個人では、医師の指示のもと、下剤での調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日ではない日でも、曜日、時間、入浴回数にとられることなく、状況に合わせた対応を行っている。ゆっくりと楽しく入浴出来るよう配慮している。	基本的に週2回以上、午後からの入浴としているが、入浴の希望や汚染時等、いつでも入浴できる環境を整えている。また、特殊浴槽を備えているため、重度化しても入浴は可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めていない。就寝後の居室の環境も、入居者の状況に応じて対応している。日中も、本人の希望があれば横になり過ごして頂く時間をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬が何を改善するための薬なのか情報を共有している。必要に応じて主治医へ相談・報告できるようにしている。変更などあれば連絡帳に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢になることで、入居時出来ていたことが徐々に困難になっていく傾向がある。維持できている方は継続して頂くことで、楽しみ生きがいにつながっていると思われる。しかし、することが困難になってきている入居者様も、同じ場面にいることで時間を共有し、参加しているとの気持ちを持って頂くことも大切な事だと考えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外に向けての活動や外部の受け入れを控えていたが、散歩に出かけたり、日光浴を行っている。	以前は家族の協力をもらい外出に出かけたり、四季が感じられる場所に個別に出かける等していたが、現在はコロナ感染症拡大のため、外出は控えている。ただ、屋内ばかりではストレスが生じるため、花見ドライブなど人混みを避けて出かけている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	原則として現金の管理は行っていないが、必要に応じて立替を施設で行っている。例えば買い物時など本人に渡し使用して頂けるよう支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話はいつでも受け付け、また希望があった場合、特別な理由がない限りいつでもかけることができる。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共有スペースは入居者による共同制作の作品などを掲示している。七夕飾り、クリスマスツリーなどを展示し、季節感を取り入れている。	フロアには手作りカレンダーや季節の作品、クリスマスツリー展示等、季節が感じられるよう飾りつけを行っている。対面キッチンからは食事の準備や調理の音やにおいを感じ取ることができ、利用者も味見に参加する等、楽しく調理に関わっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共有スペースの中で独りになることはほとんどない。だが、自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、仲の良い入居者様同士で過ごせるよう工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の状態を見ながら、家族と相談し、可能な範囲で危険のない馴染みの家具を持ち込んで頂くことで、本人が居心地よく過ごせるような働きかけを行っている。</p>	<p>エアコン、電動ベッドが備え付けられ、自宅からテレビや冷蔵庫、位牌等、これまで使用していた馴染みの家具や品を持ち込み、動線に配慮しながら自由に配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置やテーブルの高さの調整など入居者の状態に応じて移動しやすい、使い易い環境作りをしている。居室やトイレ、お風呂などは分かりやすい表記にしている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない